



テレゼ・ブルンスヴィック・デ・コロンパ

(Therese Brunsvik de Korompa, 1775年7月27日 - 1861年9月23日) は、

ハンガリーの伯爵令嬢、教育者。ハンガリー名はブルンスヴィク・テレーズ (Brunszvik Teréz)。スイスの教育実践者ヨハン・ハインリヒ・ペスタロッチを信奉していた。

ブルンスヴィックは1828年7月1日、ロバート・オウエンが1816年にスコットランドのニュー・ラナークに設立した施設に倣い、ハンガリーに保育施設を設立した[1][2]。就学前児童の教育機関はたちまちハンガリー全土に知れわたり、1837年にフリードリヒ・フレーベルがドイツに初めての「幼稚園」を立ち上げる。また、ブルンスヴィックはブダとペシュトで女性連合を創設するとともに女性のための教育機関を始動し、一貫してその質の向上に努めた。



ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの弟子のひとりであったブルンスヴィックは、彼からピアノソナタ第24番の献呈を受けた。このため、このピアノソナタは『テレゼ』と呼ばれることもある。

Beethoven\_1799

ピアノソナタ第24番「テレゼ」 op.78 1809

Lied "Ich denke dein" Goethe WoO 74 1799



ヨゼフィーネ・ブルンスヴィック (Josephine Brunsvik[注 1] 1779 年 3 月 28 日 - 1821 年 3 月 31 日) は、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの生涯でおそらく最も重要と考えられる女性。ベートーヴェンは 15 通の恋文の中で彼女を「唯一の恋人」と呼び、「永久の献身」と「永遠の忠誠」を伝えている。謎めいた「不滅の恋人書簡」の受取人であった可能性が最も高いのはヨゼフィーネであると考えられる音楽学者も複数名にのぼる。ヨゼフィーネはベートーヴェンに「熱中」した [3]。しかしながら、母が同等の社会的地位にある裕福な婿を必要としており、ヨゼフィーネ

が結婚したのはずっと年長のヨーゼフ・デーム伯爵 (1752 年生) であった。主に経済面での苦労があったがその後デーム夫妻はほどほどに幸福な関係を築き [4]、ヨゼフィーネのピアノ教師を続けていたベートーヴェンは日頃から 2 人の元を訪れていた。ヨゼフィーネは 3 人の子どもを次々と出産、4 人目を妊娠中の 1804 年 1 月に肺炎を患ったデーム伯爵が急死する。

Beethoven\_1799

Lied "Ich denke dein" Goethe WoO 74 1799



**ユリー (ジュリエッタ)・グイチャルディ**  
(ドイツ語: Julie ("Giulietta") Guicciardi,  
1782年11月23日 - 1856年3月22日)  
は、オーストリアの伯爵夫人。一時ルートヴィ  
ヒ・ヴァン・ベートーヴェンにピアノを師事  
しており、『**月光ソナタ**』の愛称で知られる  
**ピアノソナタ第 14 番の献呈を受けた。**

ベートーヴェンはブルンスヴィック家を通じ  
てグイチャルディと知り合った。彼はとり

わけグイチャルディの従姉妹にあたるテレゼとヨゼフィーネの姉妹と懇意であつた。1801年の暮れにグイチャルディのピアノ指導を受け持つことになったベートーヴェンは、目に見えて彼女の虜となる。彼が1801年11月16日に友人であるフランツ・ベルハルト・ヴェーゲラーに宛てた書簡には次のようにある。「私の人生はいま一度わずかに喜ばしいものとなり、私はまた外に赴いて人々の中に居ます - この2年の間、私の暮らしがいかに侘しく、悲しいものであったか信じがたいことでしょう。この変化は可愛く、魅力的な少女によってもたらされました。彼女は私を愛し、私も彼女を愛しています。2年ぶりに幾ばくかの至福の瞬間を謳歌しています。そして生まれて初めて - 結婚すれば幸せになれると感じているのです。しかし不幸にも彼女は私とは身分が違い - そして今は - 今は結婚することなどできやしないのです。」ここに書かれた「魅力的な少女」がおそらくグイチャルディである。

シンドラが告白。テーレーゼが否定

ピアノソナタ 14番「月光」 op.27-2 1801

Beethoven\_1801



## ドロテア・エルトマン

Dorothea von Ertmann

ピアノソナタ第28番作品101が献呈された。メンデルスゾーンやシンドラーも称賛したほどの優れたピアニストであった彼女は、このとき既に10年来のベートーヴェンの弟子であった。夫人の演奏を高く買っていたベートーヴェンは1817年2月23日の書簡で「かねがねあなたに差し上げようと思っていたもので、あなたの芸術的天分とあなたの人柄に対する敬愛の表明になるでしょう。」と書き送って。

Dorothea von Ertmann

Dorothea von Ertmann (born Dorothea Graumann, 3 May 1781 – 16 March 1849) was a German pianist.

### Biography

Dorothea Graumann was born in Frankfurt and married Stephan von Ertmann, an Austrian infantry officer, in 1798. The couple moved to Vienna, where Dorothea Ertmann began taking lessons with Ludwig van Beethoven; he called her his "Dorothea-Cecilia". He dedicated his Piano Sonata No. 28 to her, and she may also have been the intended recipient of his Immortal Beloved letters.[1] Her only child, Franz Carl, died at a young age in March 1804.[2] While she was in mourning, Beethoven invited her to his home and improvised on the piano for her for an hour in order to comfort her, saying "We will now talk to each other in tones".[3] Ertmann premiered his Cello Sonata No. 3 on 5 March 1809 with Nikolaus Kraft.[4][5] She and her husband moved to Milan in 1820, where she was visited by Felix Mendelssohn, but after her husband's death in 1835 she returned to Vienna where she died.[1]

Ertmann gave a number of public concerts and was most noted for her performance of Beethoven's compositions: Alexander Thayer said that "all contemporary authorities agree, [she was] if not the greatest player of these works at least the greatest of her sex".[6] Anton Schindler suggested that "she grasped intuitively even the most hidden subtleties of Beethoven's works with as much certainty as if they had been written out before her eyes".[1] He also said that "without Frau von Ertmann, Beethoven's music would have disappeared even sooner from the repertory" because she created a musical salon dedicated to preserving his style against the rise of newer, more "fashionable" composers.[7]

The German opera singer and teacher Mathilde Marchesi, née Graumann, was her niece.

Beethoven\_1804

ピアノソナタ第28番作品101 1816



エルデーディはルーマニアのアラドに生まれた。1796年6月6日に有名な貴族のエルデーディ家出身であるペーター・フォン・エルデーディ・ツー・エーベラウ・ウント・モンテ・クラウディオ伯爵と結婚する。夫の間には1男2女を儲けた。1798年5月3日にはSternkreuzorden（星章）に叙せられる栄誉に浴した。1805年に夫と別れると、その後秘書で子どもの音楽教師を引き受け、作曲家でもあったフランツ・クサファー・ブラウフル（1783年-1838年）と事実婚の関係となった。

エルデーディは早くからベートーヴェンを高く評価していた。ベートーヴェンは1808年から

1809年には、クルーガーシュトラッセ 1074にある彼らの広大な邸宅でも暮らしていた。また、彼女はウィーン近郊のイエードレゼー（Jedlesee）に小さな地所を所有しており、この場所には現在ウィーン＝フローリドスドルフのベートーヴェン記念館が入居している。**ベートーヴェンはピアノ三重奏曲第5番、第6番、ヨーゼフ・リンケのために書かれたチェロソナタ第4番、第5番、そして3声のカノン『おめでとう、新年おめでとう』WoO 176をエルデーディに献呈している。**





ベッティーナ・ブレンターノ

ベッティーナ・フォン・アルニム (Bettina von Arnim, 1785年4月4日 - 1859年1月20日) は、ドイツの女性作家・文学者。ドイツ・ロマン主義の最盛期の代表として著名な人物で、また同時代の著名なロマン主義の文学者アヒム・フォン・アルニムの妻でもある。兄クレメンス・ブレンターノも同じ著名なドイツロマン主義の詩人である。

1806年にはヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテの母カタリーナ・エリザベート・ゲーテと長きに渡る親交が始まっている。その1年後に彼女はヴァイマルで、彼女が神のように崇めていたゲーテ本人を訪問し、そこから2人の間で後に有名なものとなる書簡の往来が始まる。

1810年まで彼女は南ドイツのあちこちを移動し、ここでもルートヴィヒ・ティークやルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンのような芸術家たちや学者たちと知り合いになった。

シューマンは、事実上最後の作品の一つである『暁の歌』を彼女に献呈している。



Beethoven\_1810

## 子供

アヒム・フォン・アルニムとの結婚から生まれたのは次の子どもたちである。

フライムント・ヨハン (1812年5月5日 - 1863年3月2日)

ジークムント・ルーカス (1813年10月2日 - 1890年2月22日)

フリートムント・アントン・ネボムク (1815年2月9日 - 1883年7月24日)

キューネムント・ヴァルデマール (1817年3月24日 - 1835年6月24日)

マクシミリアーネ・マリー・カタリーネ (1818年10月23日 - 1894年12月31日)

アームガルト・カタリーナ (1820年3月4日 - 1890年1月17日)

オット依リエ・ベアテ・ギーゼラ・ヴァルブルギス (1827年8月18日 - 1889年8月4日)



テレゼ・マルファッティ

テレゼ・フォン・ドロスディック男爵夫人  
(Baronin Therese von Droßdik 1792年1月1日 - 1851年4月27日) は、

オーストリアの音楽家、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの親しい友人。ベートーヴェンの有名なバガテル『エリーゼのために』の献呈先と目される人物のひとりとしてよく知られる。

妹のアンナ(1792年-1869年)は、ベートーヴェ

ンの友人であったイグナツ・フォン・グライヒェンシュタインと1811年5月29日に結婚している。

1810年4月もしくは5月にベートーヴェンがテレゼに宛ててしたためた書簡は次のように結ばれている。

いざさらば、敬愛するテレゼ。あなたにこの人生にあらゆる素晴らしい、美しい事物のあらんことを。私のことを心に留めておいてください - 私よりもあなたに明るい、幸福な人生を望める者などおりません - 万一、あなたがそんなことを気にも留めていなかったとしても。

敬具 —ベートーヴェン

これは必ずしも恋文というわけではなく、またベートーヴェンがテレゼ・マルファッティに求婚したという確証はないが、フーゴ・リーマンなどの学者は求婚の事実があったものと考えている。加えて、バガテル『エリーゼのために』の楽譜が彼女の私的な書類の中から発見されている。いずれにせよ、テレゼがベートーヴェンと結婚することはなく、ベートーヴェンは生涯独身であった。

Beethoven\_1810

「エリーゼのために」は、本来「テレゼ (Therese) のために」という曲名だったが、悪筆で解読不可能など何らかの原因で「エリーゼ (Elise)」となったという説が有力視されている。本曲の原稿はテレゼ・マルファッティの書類から発見されたものであり、テレゼはかつてベートーヴェンが愛した女性であった。この説ではテレゼ・マルファッティがエリーゼの正体ということになる。

2010年、ドイツの音楽学者クラウス・マルティン・コーピッツ (ドイツ語版) は、ベートーヴェンがソプラノ歌手エリーザベト・レッケル (ドイツ語版) のために作曲しているという仮説を自著で発表した。この女性は1813年に作曲家ヨハン・ネポムク・フンメルと結婚した。



## ディアベリ変奏曲 op.120

### アントニー・ブレンターノ

(Antonie Brentano 1780年5月28日 - 1869年5月12日) は、慈善家、美術品収集家、芸術家のパトロン。ブレンターノ一家はこの時期の1810年にベートーヴェン、1812年にゲーテとそれぞれ面識を得ている。

1797年9月、作家のクレメンス・ブレンターノ(1778年)やベッティーナ・フォン・アルニム(1785年-1859年)の異母きょうだいにあたるフランクフルトの裕福な商人であったフランツ・ブレンターノ(1765年-1844年)が、腹違いの妹であるゾフィー・ブレンターノ(1776年-1800年)と彼の継母であるフリーデリケ・ブレンターノ(旧姓ロッテンホフ、1771年-1817年)をウィーンに送りアントニーと面会させた[1]。フランツは1796年末もしくは1797年のはじめに軽く顔を合わせていた。アントニーの父との長期の交渉の結果、フランツとアントニーは1798年7月23日にウィーンのシュ

テファン大聖堂で結婚することになった。結婚から8日経つと2人はウィーンを後にしてフランクフルトへと旅立った。アントニーとフランツは6人の子を儲ける。

アメリカのベートーヴェン学者であるメイナード・ソロモンは1972年発表の「New Light on Beethoven's Letter to an Unknown Woman (氏名未詳女性宛てベートーヴェン書簡への新たな光)」と題した論文上、および補遺となる1977年の評論「Antonie Brentano and Beethoven (アントニー・ブレンターノとベートーヴェン)」において、アントニーがベートーヴェンの「不滅の恋人」であると発表した[9]。

マクシミリアーネ・オイフロジューヌ・クニグンデ(1802年11月8日フランクフルト - 1861年9月1日ブルンネン/シュヴァイツ)1825年12月30日にフリードリヒ・ランドリン・カール・フォン・ブリッタースドルフ(1792年-1861年)と結婚、ベートーヴェンは彼女のために**ピアノ三重奏曲 WoO 39** [2]を作曲した[3]。「ベートーヴェンはピアノ三重奏のためのアレグレットを出版に回そうとしなかったが、おそらく曲の性質があまりにくだけたものだったからだろう。彼は10歳のピアノの生徒であったマクセ・ブレンターノのために曲を書き、『我が小さな友人のピアノ演奏の励みとなるように。LVB』という言葉添えた」

Beethoven\_1810

(ピアノソナタ 32/33?)





**アマーリエ・ゼーバルト** (Amalie Sebald 1787年8月24日 - 1846年1月4日) は、ドイツの歌手。

ゼーバルトはベルリンに生まれた。父は法律顧問官 (Justizrats) のカール・クリスティアン・アウグスト・ゼーバルト、母はアルスティン・フォン・ゼーバルト (旧姓シュヴァトケ) である。ゲオルク・カール・ベンヤミン・リッCHEルと結婚した姉妹のアウグステと同様、アマーリエもソプラノ歌手であった。合唱協会の記録には母が1791年、姉妹が1801年と1802年に記録されており、独唱者として舞台

に登場したのはそれぞれ1794年、1803年、1804年のことであった [1]。ベートーヴェンとゼーバルトは1811年の夏にテプリツェの海岸リゾートで出会っている。この時ゼーバルトは詩人のエリーザ・フォン・デア・レッケ (ドイツ語版) と旅行中であった。1812年にテプリツェで再会すると作曲家の心を射止めた。1815年10月17日、ゼーバルトはベルリンの法律顧問官であったルートヴィヒ・クラウゼ (1781年-1825年) と結婚するが、夫に先立たれてしまう [2]。一方独身のままだったベートーヴェンは、5年後にヒアナスジオ・デル・リオに対し自分は恋に落ちた女性に幾ばくかの望みを持っていると語った [3]。

ベートーヴェン学者のヴォルフガング・アレクサンダー・トーマス＝サン＝ガリは1910年、ベートーヴェンが1812年7月6日、7日にボヘミアの温泉療養地であるテプリツェで書いたと判明している、宛先不明の有名な「不滅の恋人書簡」の受取人がゼーバルトだったとの説を提唱した。トーマス＝サン＝ガリの説は現在では議論されていない。